

※ 以下、各選択肢の右に該当クラス数を記す。（全回答数に対する回答率も附記）

A（問1～10）：授業担当者として教授技法や授業内容等に関し、教育活動を自己点検し、次の①～④のうち該当する丸数字を選んでください。 ①:あてはまる ②:ややあてはまる ③:あまりあてはまらない ④:あてはまらない

設問1 シラバスに沿って授業を行えた。

①:14 (78%) ②:4 (22%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問2 学生の理解度やレベルを踏まえて授業内容を設定・調整した。

①:9 (50%) ②:8 (44%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:1 (6%)

設問3 話し方、板書の仕方、機器又は器具の使い方、等が適切だった。

（教授技法の適・不適の観点で柔軟に回答してください。）

①:13 (72%) ②:3 (17%) ③:2 (11%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問4 重要ポイントを明示し、分かり易く説明した。

①:13 (72%) ②:5 (28%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問5 学習意欲や知的好奇心・関心を掻き立てたり満足させる教え方ができた。

①:6 (33%) ②:7 (39%) ③:5 (28%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問6 受講生の信頼を得るような授業態度で授業に臨んだ。

（授業を周到に準備し、休講・遅刻を極力控え、進行を妨げる行為（私語など）に対して毅然として実施した。）

①:12 (67%) ②:4 (22%) ③:2 (11%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問7 受講者とのコミュニケーションを図りながら授業を進めた。

（発問への回答を学生に求めた/学生からの質問・発言を促した/学生の理解度を確かめながら進めた

/学生の授業への能動的な参加（アクティブ・ラーニング）を促した 等）

①:7 (39%) ②:7 (39%) ③:2 (11%) ④:2 (11%) 未回答:0 (0%)

設問8 授業内容に見合った予習・復習或いは発展学習を課した。

①:10 (55%) ②:6 (33%) ③:1 (6%) ④:1 (6%) 未回答:0 (0%)

設問9 総合的に判断して学生を満足させる授業が行えた。

①:7 (39%) ②:11 (61%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

設問10 シラバスに掲げた当初の授業目標（ねらい）は達成された。

①:12 (67%) ②:6 (33%) ③:0 (0%) ④:0 (0%) 未回答:0 (0%)

B（問 11～15）：FD 活動についてお尋ねします。

設問 11 この授業科目に関してこの 1 年間取り組んだ FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 6（33%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 13（72%）
- ③他大学の FD 活動の視察： 2（11%）
- ④その他： 6（33%）

設問 12 今後取り組もうと考えている FD 活動を選んでください。（複数回答可）

- ①他教員の授業参観： 9（50%）
- ②学内外の FD 講演会等への参加： 12（67%）
- ③他大学の FD 活動の視察： 2（11%）
- ④その他： 2（11%）

設問 13 昨年度も同一科目を担当した方は、前年度の授業評価に基づき、改善した点を書いてください。

該当するクラスのうち、 回答：15 クラス（順不同）

[1] 授業の初めに、前回の授業の復習を必ず行ってから、内容に入った点。

[2] 中間試験を廃止して、15 分間程度の小テストを 2 回実施することで、採点時間を短縮し、受講生のモチベーションが下がらないうちに小テスト答案を返却することができた。「専門基礎」科目としての制約上、知識・概念・計算方法の解説に授業時間の大半を割かざるを得ず、この授業におけるアクティブ・ラーニングは、昨年度までは、計算練習としての毎回の課題の提出・添削・返却および中間試験答案の添削・返却に限られていた。今年度は、他大学の FD に積極的な先生の授業を見学し、その先生との意見交換を基に、全 15 回のうち 3 分の 1 程度の回数において、各回の授業構成を複数の小さな（短時間の）ストーリー単位に構成し直して 1 ストーリー済む毎に隣の受講生と疑問点やストーリーのまとめを互いに伝え合うという試みを実施してみた。この試みを実施しなかった回に比べて、実施した回では授業が進むにつれて表情が沈滞する受講生が減ったように見受けられる。・・・2 クラス

[3] 線形代数学の応用を念頭においた授業を後半で行い、学生の興味をひかせる工夫とした。・・・2 クラス

[4] 昨年度は担当していない。・・・2 クラス

[5] 授業の最後に時間を確保し、その授業中に説明した内容の問題を解かせ、授業内容の定着を図った。

[6] 黒板とスクリーンを併用した。

[7] 教科書を変更した。

[8] 昨年度の授業評価はおおむね良好であったため、特に改善はしていない。

[9] 授業回数が昨年度とは異なっていたため、今年度の授業回数に合わせて授業内容を精選した。受講生がイメージしやすいよう、具体例を昨年度よりも多く話した。

[10] チームベースドラーニング（TBL）を取り入れた授業を行っており、グループで問題を取り組ませ、その答えをグループ発表させている。昨年度はその発表にコメントを追加する形で模範解答を示していたが、それのみだと学生は「正しい解答」を認識しづらいことが判明したので、模範解答の ppt スライドを全ての問題に対して用意して追加解説を行うようにした。・・・2 クラス

[11] 演習を復習的に行うため、授業の最初に何度か実施した。

設問 14 自分の授業の評価できる点や反省すべき点、或いは、この FD 活動レポートに関して特記すべき点があれば書いてください。

回答： 12 クラス（順不同）

[1] 昨年度までは、返却する課題レポートや試験答案を添削する際、受講生の未達成部分のみを厳しく指摘した（受講生の悪い面ばかり注視した）が、今年度は「今後何をすれば、未達成部分を達成しやすくなるのか」を例示する短いコメントを付記して返却した・・・誰でも、過去の過ちを指摘されるよりは、未来で飛躍するヒントを聴くほうが、モチベーションを保ちやすいであろう・・・2 クラス

[2] 学生の授業への能動的な参加を促すような工夫を行わなかったため、次回は工夫していきたい。

[3] 授業の最後に時間を確保し、問題を解かせたが、ときには授業の説明に時間がかかり、十分な時間を確保できなかったのが反省点である。

[4] 学生の授業への能動的な参加を促すような工夫をしていないので、次回はその工夫をしていきたい。

[5] やや学生のレベルを超えた内容であったため、今後はもう少し学力に応じた授業にしたい。

[6] 毎年 1/3 程度いる数学系科目を苦手とする学生さんに対するケアをどのように行っていくかが課題と考えている。

[7] 受講生とのコミュニケーションが足りなかった。「特別支援教育入門」は専門基礎の授業科目であるため、この FD 活動レポートの質問項目 19～22 は回答が難しい。”

[8] 授業終了前 20 分間に、学生同士で教えあう時間を設定するとともに、毎週月曜日 1 コマめの授業の内容に関連した補習・予習を 4 コマめに計 12 回実施し、延べ人数 300 名あまりの学生が参加して、理解度改善を図ることができた。

[9] 毎回 TBL によるアクティブラーニングを行っている。また、工学部基礎教育センター担当物理教員が担当している他学科向けの「物理科学」と合同で、補習を行っている・・・2 クラス

[10] 特になし。

設問 15 FD 活動レポートに関して特記すべき報告があれば添付ファイルで提出してください。

提出ファイル： なし

C (問 16～18) : 中期目標・中期計画のうち「コミュニケーション能力の育成」についてお尋ねします。

設問 16 授業に「コミュニケーション能力の育成」を考慮した内容が含まれていますか？

①はい： 10 (56%) ②いいえ： 8 (44%) 未回答： 0 (0%)

問 16 で「はい」の方は問 17、18 にお答えください。

設問 17 下記のどの点を重視しましたか？（複数回答可）

①聞いて理解する： 5 (28%)

②読んで理解する： 2 (11%)

- ③自分の考えをまとめて話す： 4 (22%)
- ④自分の考えを文章にまとめる： 4 (22%)
- ⑤討論する： 7 (39%)
- ⑥皆の前でプレゼンテーションする： 1 (6%)
- ⑦その他： 3 (17%)

設問 18 「コミュニケーション能力の育成」に関して具体的な取り組みがありましたら、記述してください。

回答： 4 クラス（順不同）

[1] コミュニケーションの理論と自分の日常生活でのコミュニケーションの現場を繋げることを目的とした課題を出したり、ディスカッションしたりした。

[2] 授業の内容理解状況や授業を受けて考えたことをコメントペーパーにまとめるように促した。また、授業中に課題を与えて、座席近くの学生と意見交換する機会をつくった。

[3] 毎回 TBL 形式の講義を行っており、グループ内で問題に取り組んだ後、グループをシャッフルして、他グループの解答を聞き、自グループの解答を説明する「ワールドカフェ」を行っている。・・・2 クラス

D (問 19～22)：中期目標・中期計画のうち「地域を教材とする基礎教育/共通教育プログラム」についてお尋ねします。

設問 19 授業に「地域（宮崎）を教材とする」内容が含まれていますか？

- ①はい： 2 (11%)
- ②いいえ： 19 (89%)
- 未回答： 0 (0%)

問 19 で「はい」の方は問 20～22 にお答えください。

設問 20 その内容を授業に取り上げるおよその回数を選んでください。

- ①1～5回： 2 (25%)
- ②6～10回： 1 (2%)
- ③11～15回： 0 (0%)
- 未回答： 0 (0%)

設問 21 「地域」のどのような分野を取り上げていますか？（複数回答可）

- ①歴史・文化： 0 (0%)
- ②政治・経済・産業： 0 (0%)
- ③自然環境・フィールド体験： 1 (6%)
- ④その他： 1 (6%)

設問 22 「地域を教材とした基礎教育/共通教育プログラム」に該当する特色ある活動がありましたら、記述してください。

回答： 0 クラス